

新国立劇場 2011/2012 シーズン演劇公演
[JAPAN MEETS… -現代劇の系譜をひもとく-] VI

温室

作◎ハロルド・ピンター 翻訳◎喜志哲雄
演出◎深津篤史

2012年6月26日(火)~7月16日(月・祝)
新国立劇場 小劇場

現代演劇の巨匠ハロルド・ピンター、新国立劇場初上演！

“日本の演劇がどのように西洋の演劇と出会い進化してきたか”を探るため、昨シーズンより上演してきた、シリーズ [JAPAN MEETS… -現代劇の系譜をひもとく-]。その第6弾にして、今シーズンのラストを飾るのは、20世紀を代表する劇作家ハロルド・ピンターの問題作『温室』です。

どこの国とも知れない、病院と思われる国営の収容施設。ここを舞台に繰り広げられる、施設の職員たちの不毛な権力争いや、不祥事の隠ぺい、職務怠慢など、滑稽ともいえるクリスマスの日が描かれます。そこに、意志決定や権力の構造が見えない現代日本への皮肉を感じたり、組織の不条理を見てとったりと、自分の身に引き付けて感じることもできるでしょう。

不気味な怖さの漂う男“ギブズ”には、細やかな演技に定評のある高橋一生。男たちに取り入る女“カツ”に、コケティッシュな魅力の小島 聖。権力の保持に汲々とする男“ルート”に、変幻自在の存在感を放つ段田安則が扮します。ステージを客席で挟んだ緊密な劇場空間で味わう、知的な刺激に満ちた舞台。観終わった後に背筋が寒くなる、ブラックな世界をお楽しみください。

【4月21日(土)チケット前売り開始 ☎ 新国立劇場ボックスオフィス 03-5352-9999】

写真・資料のご請求、取材のお問い合わせ

◎新国立劇場 制作部演劇 広報担当 田中雅司

◎新国立劇場 制作部演劇 制作担当 伊澤雅子、村本千晶

TEL: 03-5352-5738 / FAX: 03-5352-5709



新国立劇場

NEW NATIONAL THEATRE TOKYO
<http://www.nntt.jac.go.jp>

◎作品について

宮田監督の2シーズン目の最後は、イギリスの作家でノーベル文学賞を受賞した、ハロルド・ピンターが登場します。ピンターは現代イギリスを代表するだけでなく、20世紀以降の演劇の潮流の中でも際立って大きな影響力を全世界の演劇界に与えており、まさに20世紀を代表する劇作家といえます。

個人のアイデンティティの危うさや、社会の欺瞞、あるいは人間関係の不安定さを、鋭く切り詰めた言葉で、時に過激に表現し、登場人物のキャラクターを崩壊寸前まで突き詰めた作品群は、21世紀になった今でも現代人の心に深く突き刺さります。

『温室』は1980年4月、ロンドン初演。実は1958年に執筆されていましたが、当時ピンターはこの作品が気に入らず、上演しませんでした。しかし、自身が盛んに政治的発言をするようになったころ、この戯曲を読みなおし、上演に値する作品であると思いなおし、ようやく自らの演出で初演されるに至りました。日本初演は1988年1月。喜志哲雄翻訳、吉岩正晴演出の、演劇企画レ・キャンズ公演でした。

今回の演出には、新国立劇場公演『動員挿話』『弱法師』『象』で鮮烈な印象を残した深津篤史があたります。ピンター研究の第一人者である喜志哲雄氏とともに、上演台本を作成。全体主義的な国営収容施設という設定は、ややもすると無表情で無機質な冷たい印象になりますが、演出の深津はあえて今回人間くさく作りたいと語っています。新たな『温室』にご期待ください。

◎あらすじ

病院とおもわれる国営収容施設。クリスマス。

患者6457号が死に6459号が出産したという、部下ギブズからの報告に、驚き怒る施設の最高責任者であるルートは、かつてこのような事件が起こったことはなく、この事態を収束させるには秩序が何よりも重要だと主張し、妊娠させた犯人を探し出せと命令する。

ギブズは犯人が見つかったと報告するが、事態は奇妙な方向へと動き出していく……。

◎演出家からのメッセージ

深津篤史

劇作家でもある私が、初めて自作以外の作品を演出したのはもう15年も前の事、サム・シェパードのフル・フオーラブだった。その後本当に色んな作品を、特に新国立劇場さんでは、やらせて頂いたが、何故かあれ以来英語圏の作品に縁がなく、ここに至った次第だ。

15年前も何故私がこの作品をって、台詞長すぎないか、苦手だこれとか、メイとか名前が恥ずかしいとか、思ったけれど、15年経ってそういう事はもう思わないというか、ちょっぴり麻痺したけど、この度はこれまた大変な作品であるなあ。困ったなあというのが第一印象だ。何がって、登場人物に可愛げがない。お馬鹿さん一人は除いても、で、感情移入されにくい。いや、たぶん、されない。そういう意図の作品なのだから仕方がないが、これを管理社会の無表情な演劇ってやったら何の焼き直しだって事になるので、私はやっぱり、いかなる状況下にあっても温度のある人間を描きたいと思います。悲劇的でなく、悲観的な喜劇になればと思います。

◎プロフィール

作◎ ハロルド・ピンター (Harold Pinter)

1930年、ロンドン生まれ。俳優としてキャリアをスタートし、57年、処女戯曲『部屋』で劇作家に転身。同年に『誕生日パーティ』『料理昇降機』を発表後、『管理人』(59)で注目を集め、その後、『帰郷』(64)などの作品で地位を確立。追いつめられた人をめぐる不条理を、恐怖とユーモアのうちに描く独特の作風は、その名を冠してピンタレスクと呼ばれる。初期の心理的リアリズムを指向する作風から、『風景』(67)などの詩的な作品を経て、とりわけ『景気づけに一杯』(84)以降は政治色の強い作品を次々と発表。ラジオ・テレビドラマ、映画の世界でも活躍し、『フランス軍中尉の女』(81)『スルース』(2007)などの映画脚本で知られる。人権活動家としても著名で、イラク戦争開戦時にも積極的な反戦活動を展開した。他の代表戯曲に『誰もいない国』(74)『灰から灰へ』(96)などがある。05年ノーベル文学賞受賞。08年12月24日、78歳で逝去。

翻訳◎ 喜志 哲雄 (きし・てつお)

1935年生まれ。西宮市出身。58年京都大学文学部卒業、60年コロンビア大学大学院留学、64年京都大学大学院修了。現在京都大学名誉教授。著書に『ミュージカルが《最高》であった頃』『喜劇の手法』『シェイクスピアのたぐらみ』『劇作家ハロルド・ピンター』のほか、訳書としてピーター・ブルック著『秘密は何もない』、ハロルド・ピンター著『ハロルド・ピンター I、II、III』『何も起こりはしなかった』ほか多数。2010年『シェイクスピアのたぐらみ』でAICT(国際演劇評論家協会)演劇評論賞受賞。

演出◎ 深津 篤史 (ふかつ・しげふみ)

1967年生まれ。同志社大学院文学研究科修士課程修了。関西で活躍する劇団桃園会主宰。劇作家・演出家・劇団プロデューサー。NPO大阪現代舞台芸術協会理事長。主な作品に『うちやまつり』(第42回岸田國士戯曲賞受賞)、『のたり、のたり』『よぶには、とおい』『熱帯夜』『paradise lost, lost』など。

飛田演劇賞快挙賞、兵庫県芸術奨励賞、大阪咲くやこの花賞などのほか、新国立劇場『動員挿話』で第13回読売演劇大賞優秀演出家賞、作品賞を受賞。ほかに『近代能楽集 弱法師』『象』も演出。

ギブズ◇ 高橋 一生 (たかはし・いっせい)



舞台・映画・テレビと幅広く活躍する若手実力派。舞台では蜷川幸雄、鴻上尚史、渡辺えり、若松了、ケラリーノ・サンドロヴィッチ、後藤ひろひと、本谷有希子ら、多くの演出家の舞台に出演。

近年の主な出演作に、映画『デトロイト・メタル・シティ』、ドラマ『早海さんと呼ばれる日』『名前をなくした女神』『医龍2、3』、舞台『深呼吸する惑星』『深説・八犬伝』『窓』など。新国立劇場には2010年、『エネミー』に出演。2012年4月26日よりテレビ朝日木曜ドラマ『Wの悲劇』が放送スタート。

カツ嬢◇ 小島 聖 (こじま・ひじり)



1989年、NHK大河ドラマ『春日局』でデビュー。以降、数多くの映画・TVドラマ・CMに出演し、99年に『あつもの』で第54回毎日映画コンクール女優助演賞受賞。近年はコンスタントに映像作品に出演する一方、蜷川幸雄、長塚圭史、栗山民也、永井愛、ジョン・ケアーなど、話題の演出家の舞台にも出演。新国立劇場では『なよたけ』『ゴロヴリョフ家の人々』『二人の女兵士の物語』『やわらかい服を着て』『アルゴス坂の白い家』に出演。

ルート◇ 段田 安則 (だんだ・やすのり)



青年座研究所卒業後、92年解散まで「劇団夢の遊眠社」に在籍。以後、舞台、映画、テレビ、CFなど幅広い分野で活躍。『ヴァージニア・ウルフなんかこわくない?』などの演技にて06年度読売演劇大賞グランプリ、第6回朝日舞台芸術賞を受賞。また、09年『夜の来訪者』、11年『泣き虫なまいき石川啄木』では演出。近年の出演作としては『叔母との旅』『大人はかく戦えり』『国民の映画』などがある。新国立劇場の出演作品は『夜への長い旅路』『櫻の園』『箱根強羅ホテル』『舞台は夢—イリュージョン・コミック』がある。

◎マンスリー・プロジェクトについて

一人でも多くの方に気軽に劇場に足を運んでもらいたいと、2010/2011 シーズンより「マンスリー・プロジェクト」が始動しました。リーディングあり、講座あり、トークショーありの、多彩な無料プログラムを用意し、その月々に関連した演劇公演に多角的にアプローチしています。

本年7月は、『温室』上演に関連して、本戯曲の翻訳者でもある京都大学名誉教授の喜志哲雄氏による演劇講座「ハロルド・ピンターの世界」を開催いたします。

演劇講座「ハロルド・ピンターの世界」

講師：喜志哲雄（京都大学名誉教授）

日時：7月7日（土）17:00

会場：新国立劇場 小劇場

2012年6月5日（火）～25日（月）の応募期間内に、新国立劇場ホームページの所定のフォーマットもしくは往復ハガキでのお申し込みが必要です。詳しくは、新国立劇場ホームページ（<http://www.nntt.jac.go.jp/play/mp>）か、情報センター（03-5351-3011（代））でご確認ください。

◎公演概要

【タイトル】 JAPAN MEETS… —現代劇の系譜をひもとく— VI

温室

【スタッフ】 作 ハロルド・ピンター
 翻訳 喜志哲雄
 演出 深津篤史
 美術 池田ともゆき
 照明 小笠原 純
 音響 上田好生
 衣裳 半田悦子
 演出助手 川畑秀樹
 舞台監督 加藤 高
 芸術監督 宮田慶子
 主催 新国立劇場

【キャスト】 高橋一生、小島 聖、山中 崇、橋本 淳、原金太郎、半海一晃 / 段田安則

【会場】 新国立劇場 小劇場 (京王新線 新宿駅より1駅、「初台駅」中央口直結)

【公演日程】 2012年6月26日(火)～7月16日(月・祝)

2012年	6/26	27	28	29	30	7/1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月
13:00					◎	●						◎	●						◎	●	●
14:00			★				休演	●	◎	●				休演	●	●					
18:00																			◎		
19:00	◎	●		●							●						◎	◎			

◎=託児室あり(要予約) / ★=終演後、シアタートーク / 7/7 17:00=マンスリー・プロジェクト

【前売開始】 2012年4月21日(土)10:00～

【料金】 A席 5,250円 B席 3,150円

(三作品特別割引通し券〈海外戯曲 春から夏へ〉を発売。『負傷者16人』『温室』A席、
『サロメ』S席がセットで 15,700円(正価 17,850円のところ))

チケット申し込み・問い合わせ

新国立劇場ボックスオフィス TEL:03-5352-9999

新国立劇場Webボックスオフィス <http://pia.jp/nntt/>

その他チケット取り扱い

チケットぴあ、イープラス、ローソンチケット、CNプレイガイド ほか

* **Z席 1,500円** 公演当日10時よりボックスオフィス窓口で販売。1人1枚。電話予約不可。* **当日学生割引** 公演当日残席がある場合、Z席を除く全ての席種について50%割引にて販売。要学生証。1人1枚。電話予約不可。* 新国立劇場では、高齢者割引(65歳以上5%)、障害者割引(20%)、学生割引(5%)、ジュニア割引(中学生以下20%)など各種の割引サービスをご用意しています。